

青鳩よわき物なり、小豆を喰ふ、すりゑに付て飼がよし、尺八鳩杯といふも此類にて同じ物なるべし、聲至て淋しき物にて面白し、又山鳩に白子鳩に似たるあり、聲かわりあり、

大鳩 餌かい 同斷

大きさ鳥に少し小ぶりにて、總身濃ひ鼠首長く鱗立毛あり、醬青くして足鳩のごとく赤し、ゑりに白き毛少し有めづらしき類也。

〔八丈物産志〕クロバトハ形チ慈鳥ニ似テ、首ノ廻リ青光ノ色アリ、山中ニ多クシテ椿ノ實ヲ好み、是ヲ捕テ食スルニ味ヒ鴨ニ類ス、
シヨバトハ國地ノキジバトニテ、島人詞タラズシテシヨバト、云、是ハシロハトノツマリタル
ナルカ、村々ニ多クシテ、タミト云木ノ實ヲ好ム、味ヒクロバトニ及バズ、

〔源氏物語 夕顔〕夕暮の玄づかなるに、そらのけしきいと哀に、おまへの前裁かれぐに、むしの音もなきかれて、もみぢやうく色づくほど略申竹の中に家ばと、いふ鳥の、ふつ、かにくをさき、給て、かのありし院に、このとりのなきしを、いとおそろしと思ひたりしさまの、おも影にらうたくおもほしいでらるれば○下略

〔内安錄〕一山鳩は繪にて見る計なるに、越前屋彦四郎丁目本郷一の飼鳥を見て、珍敷ものと思ひしに、桑山修理が咄には、修理の知行大和國にては食物にするよしを聞けり石清水臨時祭後度の出御、桐竹鳳凰の御袍を遙拜し、極膳の袍を見れば、いかにも山鳩色とはよく名付たるものと思はる、又肥前大村領民家の庭に、山鳩色なるものを笊に入て並べたるを見何ぞと尋しに醤油の麴也といふ、麴塵の色奇妙也、越前屋の飼鳥、大村領の麴を見て、漸發明せしはをかしかりき、關東もの衣文などをもの玄り顔にいふは僻事多かるべし、

〔延喜式〕治部二十一祥瑞

白鳩略 中 右中瑞